

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

SK2021211
S2022074

③施設名等

名称：	社会福祉法人和歌山県社会施設事業会 こぼと学園
施設長氏名：	福島 友利
定員：	45 名
所在地(都道府県)：	和歌山県
所在地(市町村以下)：	和歌山市直川1437
T E L：	073-461-0072
U R L：	http://kobatogakuen.wp.xdomain.jp/
【施設の概要】	
開設年月日	1954/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人和歌山県社会施設事業会
職員数 常勤職員：	32 名
職員数 非常勤職員：	20 名
有資格職員の名称（ア）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	2 名
有資格職員の名称（イ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（エ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	3 名
有資格職員の名称（オ）	保育士
上記有資格職員の人数：	18 名
有資格職員の名称（カ）	教員
上記有資格職員の人数：	4 名
施設設備の概要（ア）居室数：	26室 45名 （1部屋）16.56㎡
施設設備の概要（イ）設備等：	小規模グループケア棟・ユニット4棟（あすなる・クローバー・すばる・かえで）
施設設備の概要（ウ）：	（ひまわりの家）実習生宿泊、自活訓練等、多目的ホーム（すみれの家）実習生宿泊、自活訓練等、多目的ホーム
施設設備の概要（エ）：	防犯カメラ、防犯システム

④理念・基本方針

<p>(1) 理念：子どもを権利の主体と位置づけ、常に子どもの最善の利益に配慮した援助を行う</p> <p>(2) 基本方針 ○家庭的養護に心がける ○社会的自立を目標とする</p>

⑤施設の特徴的な取組

<p>1. 紀の川を見下ろす和泉山脈のふもとに位置し、自然豊かな環境に恵まれ小規模グループケア4棟の中で、子ども達がより家庭に近い環境で元気に生活している。又、中長期計画で、地域小規模施設を令和7年度開設し、更なる小規模化、地域分散化を図り、多機能・高機能化を目指した取組ができている。</p> <p>2. 令和2年6月にアフターケア事業部すずらんの開設や、里親支援の充実を図るために里親支援機関B型つむぎを併設するなど、退所者の自立支援の充実と向上を目指し、よりきめ細かな支援に努めている。</p> <p>3. 短期支援事業の実施（ショートステイ、トワイライト）、一時的に子どもの養育が困難な場合に1週間を限度に受入れを行い、地域の子育て支援に取組んでいる。</p> <p>4. 地域の一員として、夜店、餅つき等各イベントに参加する等、施設や子どもたちへの理解を得て、施設所在地である直川の地が子どもたちの故郷になるよう地域との交流が活発に行われている。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2024/5/10
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/11/22

⑦総評

◇特に評価が高い点

1. 子どもたちが住んでいる直川の地が、子どもたちの故郷になるよう、あらゆる機会を通じ積極的に地域との交流を広げる目的で各種団体との充実に努めている。
2. 小規模グループケアの実施と、更なる小規模化、地域分散化を図るために令和7年度計画に、地域小規模施設の開設と併せ多機能、高機能化に向けた取組姿勢が見られる。
3. 令和6年度より、社会的養護に関わった者を対象に自立等を目的として、相談、助言、等様々な支援を行うため、和歌山県より社会的養護自立拠点事業の受託を初め、子育て短期支援等、地域の福祉向上に向けた取組ができている。
4. 職員の職種や経験年数に関わらず、統一した認識の基で子どもたちへの最善の利益に配慮した援助を行うためにも不可欠な要素でもあるマニュアルについて約50項目に亘り整備されており、年に一度職員や子どもの意見を反映、見直し必要に応じ改訂を行う等きめ細かな運営ができている。

◇改善が求められる点

1. 本体施設のユニット化に伴う入所定員45名から24名、地域小規模グループケア2ヶ所の開設、高機能、多機能化等遂行するためにも安定した人材育成、確保等さらなる積極的な取組を期待したい。
2. 家庭、育児の孤立化、家庭環境の変化等大きく変容する今日にあって、子どものみならず親への支援も不可欠であり、更なる支援体制の整備を望みたい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回、第三者評価受審に伴い、専門的かつ多角的な助言をいただき、改めて自施設の現状課題を見直す良い機会となりました。
結果を真摯に受け止め、今後も児童福祉並び、地域福祉における質の高い福祉サービスの提供をするとともに、地域に開かれた施設運営に努めていきたいと思っております。

⑨第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>理念や基本方針は、職員への行動規範となる重要なものであり、理念、基本方針、運営指針が明文化され、施設として目指すべき方向性等を読み取ることが出来る。又、事業計画、パンフレット、ホームページ等にも掲載し、園内にも掲示すると共に、職員会議等あらゆる機会を通じ周知に努めている。</p>	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>適切な施設運営を図るため、経営環境、課題等を把握し、且つ、コスト分析等を常に実施し、変化に適切に対応している。</p>	
<p>② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	

経営上の課題を解決していくため、役員会を実施し経営状況や学園の現状と課題等を明らかにし、共有されている。又、職員に対しても職員会議等を通じ周知に努めている。

3 事業計画の策定

		第三者 評価結果
(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
4名4棟の定員16名の国の施策に伴い、施設のユニット化への改築も実施されている。又、中長期計画の中でも本体施設の定員16名とし、4名4棟や児童家庭センター、一時保護専用施設等の専門施設への転換等明記され、将来を見据えた人材の確保、育成、地域社会へのスムーズな進出に向けた取組が見られる。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
中長期計画の内容が単年度の計画に反映されており、実行可能な計画となっており、事業計画を実現可能とするため、収支予算も適切に策定されている。又、令和6年度より、和歌山県からの社会的養護自立拠点事業も受託したり、里親啓発活動や家庭支援専門相談員による家庭調整、関係機関と連携した地域支援等に取り組まれている。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
事業計画は、職員等の参画、意見の集約、反映に基づいて策定し、周知に努め、十分に理解するよう取組んでいる。又、実行後は、事業報告書を作成し実績、評価、分析等を行い、次年度の事業計画に反映させる取組ができている。		
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a

<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもには子ども会（小中高生月1回開催）を通じ、今後の方向性等をわかり易く説明し、理解を促す等の取組ができています。保護者、関係機関、支援者には必要により毎月発行の広報誌（学園だより）や、来園時を利用して周知に努めている。更に、地域の方が往来する正門前の掲示板に、情報を掲示するなどの工夫を凝らし、周知に努めている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎年、自己評価の実施や第三者評価も3年毎に継続して受審し、評価、見直し、改善等を実施し、養育・支援の向上に取り組んでいる。併せて、自立支援計画、人権擁護チェックリスト、人事考課等組織的に評価を行う体制も整備されている。

② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

第三者評価受審担当職員が中心となって、評価結果、課題等の整理に基づき文書化され、改善策等について職員間で共有しながら施設運営の向上に努めている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>

	□施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	□平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長は、自らの役割と責任を学園だより等で明確にし、施設運営に取り組まれている。又、有事の際に施設長不在時の権限委任等については、勤務表の中で責任者を明記し、パソコン上でも全職員に周知が図られている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	□施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	□施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	□施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	□施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は遵守すべき法令等を把握し理解の基、研修や勉強会等に参加し、正しく理解するための取組ができている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	□施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	□施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	□施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	□施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	□施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) □施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は保育士として長年の職務経験を活かし、管理規程の中で体制を構築し職員の意見を自由に聴く中で、職員の模範となり児童処遇の向上に努め指導力を発揮している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	□施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	□施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向け、定員割れ等分析を踏まえ、施設内に具体的な体制を構築し、自らも積極的に参加されている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】		
研修要綱に基づき、福祉人材の育成に関する方針が確立されている。又、各専門職員を配置し、児童の複雑化する問題に対応できる体制が整備され、人材確保のため、実習生を積極的に受入れ、希望に応じ見学も実施されている。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
【コメント】		
年1回自己評価及び個別アンケートを基に園長面談を行い、各職員からの様々な意見聴取の場を設け、必要により改善策を講じ実行に繋げている。		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○

福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。

○

【コメント】

職員の業務負担軽減を図る観点から、勤務ローテーションや責任者等によるカバー体制を明確にし、職員の孤立化防止に努めている。又、園長や臨床心理士が定期的に面接する等、職員への心身のフォロー等に努め、人材の確保、定着の観点から働きやすい職場づくりを目指し、福利厚生にも配慮し、全職員がソウエルクラブに加入する等の取組ができています。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①

17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。

a

施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。

○

個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。

○

職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。

○

職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。

○

【コメント】

職員一人ひとりの育成に向け人事考課表や個別アンケートを基に、職員個々の目標や課題を設定し、進捗状況を把握するため、施設長が中間面接等を行い、モチベーションを高めるための取組ができています。

②

18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。

a

施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。

○

現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。

○

策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。

○

定期的に計画の評価と見直しを行っている。

○

定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。

○

【コメント】

研修担当職員を中心に園内研修が行われ、福祉に携わる職員として必要な知識、技術、スキルの修得等に努めている。又、評価については研修報告に評価欄を設け、評価、反省が明記され次年度へ繋げる取組ができています。

③

19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。

a

個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。

○

新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。

○

階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。

○

外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。

○

職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。

○

(社会的養護共通)

スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。

○

【コメント】

スーパービジョン体制を確立し、各専門職員が主体となり園内研修やOJTが実施されている。又、外部研修にも職種別習熟度に応じ、職員の養育・支援技術の向上等人材育成に取り組んでいる。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習指導者マニュアルも整備され、要員確保、育成のため実習担当職員を配置し、年間を通じ積極的に受入れを行っている。又、実習生には、各専門職員の研修をプログラムの中に導入し、適切な対応ができています。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページや毎月発行の広報誌「学園だより」により、幅広く情報公開に努めている等、運営の透明性を確保する取組ができています。又、地域との交流も盛んで、学園主催の夜店等に、地域住民、退園生、地区更生保護会員等多くの訪問者があり、盛大に行われ、風通しの良い環境の中で地域に根付いた取組ができています。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。

a

	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

公認会計士による決算や充実計画等の確認、ガバナンスの強化、財務規律の確立、助言を確認しながら、公正且つ、透明性の高い経営、運営を図る取組ができています。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】 地域の一員として地域に於ける団体長会議や研修、イベントに参加し、地域に対し施設や子どもへの理解を深めるための取組ができています。又、洗濯、学習、フットサル、掃除等多くのボランティアによる支援を受け、子どもたちの育成を支えてくれています。併せて、施設が立地する直川の地が子どもたちにとって「故郷」になるよう地域交流を積極的に行っている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】 ボランティア受入れマニュアルを整備し、学習ボランティア、洗濯ボランティア等継続した支援を受けており、施設と子どもたちについて良く理解を得てから、ボランティアに入ってもらうため、子どもや保護者、職員に対し事前説明や施設見学等の体制が確立されている。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
【コメント】 医療機関、関連機関、ボランティア、直川地区商業施設、直川地区施設等社会資源を明示したリストが詳細に整備され、連携を密にしながら、子どもの現状を共有し適切な支援に努めている。又、連携を図ることで緊急時にスムーズに対応できる体制ができています。		
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a

<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通じて、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

地域社会で必要とされる支援の観点から、アフターケア事業部すずらんを和歌山県より受託している。アフターケア、リービングケア等、ソーシャルスキルトレーニング、ワークショップの開催等、地域社会で必要とされる役割や機能を発揮するために積極的な取組を図っている。又、地域若者支援連絡会やすくすく子育て連絡会等に出席し、福祉ニーズの把握に努めたり、地域の避難訓練や盆踊り等行事にも参加し、制度の狭間にある福祉課題や生活課題解決への協働プロジェクトにも参加する等積極的な取組姿勢が見られる。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

ショートステイ、トワイライトステイ等を、子育て短期支援事業の担当を中心に全職員で積極的に受入れ、園庭を開放し施設の機能を還元する等の取組ができています。又、地域の防災訓練に参加し、地域の一員として防災意識の高揚に努めている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

理念・基本方針の中で子どもを権利の主体として位置づけ、最善の利益に配慮した援助を行うと明示している。施設内で共通の理解を持つために管理規程を策定し、職員会議や研修の機会を通じ理解を深めるように努めている。又、人権擁護推進員を中心に定期的に研修を行ったり、子どもと職員を対象にアンケートを実施し、人権について考える機会が設けられている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○

<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どものプライバシー保護については、人権マニュアル、プライバシー保護人権情報取り扱いマニュアル等が整備され、園内研修でプライバシー保護について具体例を示し周知に努めている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

パンフレット、ホームページ、子どもと保護者に向けた生活ノートを作成するなどして、必要な情報を積極的に提供している。又、入所予定の子どもや保護者には個別に説明を行い、施設見学の希望者には適宜適切な対応ができています。

② 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもや保護者等、施設が行う養育・支援について可能な限り主体的に選択できるよう選択肢を提供し、自己決定に十分配慮し尊重した対応ができています。又、その過程については記録に残し、意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮については児童相談所と相談しながら取り組んでいる。

③ 32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

他の施設や地域、家庭への移行等措置変更についてマニュアルが整備され、児童相談所、福祉事務所等関係先と連携を密にし、継続性にも配慮した支援体制ができています。又、退所後も自立支援コーディネーター、アフターケア事業部すずらんが関わりを持ち続ける等のきめ細かな対応ができています。

		第三者 評価結果
(3) 子どもの満足の向上に努めている。		
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

子ども会の月例会議や、生活アンケートを実施し子どもの満足度を図る機会を設け、結果については分析・検討を行い、職員会議で結果を周知し、施設全体が共通の問題意識の基、具体的に改善を図る取組ができている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決の体制を整備し、苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員の設置等確立し、子どもたちや保護者等で相談し易い環境づくりに努めている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に行うことをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

和歌山県の権利ノートや児童相談所からの相談意見対応マニュアルを活用し、子どもが相談したり、意見を述べる際に相談内容によって、複数の相談方法や相談相手を自由に行う等も伝えている。又、権利ノートを配布すると共に各棟に置いて回覧できるようにし、子どもの話を聴く時は、話がしやすいよう配慮して聴く等きめ細かな対応ができている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○

<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

子ども会、生活アンケート、意見箱、各棟会議、処遇場面等での意見を積極的に把握し、職員会議で検討が必要な場合協議し、検討に時間がかかる場合その旨を子どもに返答する等迅速な対応ができています。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネジメントの専任として、安全管理対策推進員を配置し施設の安全管理に取り組んでいる。又、危機管理担当者がヒヤリハット報告・事故報告を収集し要因分析、改善策、再発防止策の検討等、職員への周知徹底を図る取組ができています。

② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

看護師を中心に保健衛生担当職員、栄養士等との連携の基、子どもの安全確保のため感染症予防体制が整備されている。又、マニュアルについても看護師業務マニュアル、新型インフルエンザマニュアル等各種に亘り詳細に整備され、全職員が十分理解の基、日頃からの取組ができています。

③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○

<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>
【コメント】	
災害対策推進員を配置し必要な対策を講じており、備蓄庫には地域住民の要望で非常時に共有できる災害用シート等も多数揃え、定期的に行われる連合自治会主催の総合避難訓練にも積極的に参加、協力する組織的な取組ができている。	

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>
【コメント】	
標準的な実施方法は、マニュアルに明文化されている。職員会議等で周知徹底するようにしている。また、実際に子どもの尊重や権利擁護等が実際の養育支援において実践できるように、新人職員と中堅職員、その職員をフォローできる職員を組み合わせ、常に連絡・相談をしながら支援できる体制をつくっている。	

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>
【コメント】	
2か月に一度程度、担当職員・心理担当・自立支援コーディネーター等が集まった自立支援会議を定期的に行うとともに、職員会議等で養育・支援の検証見直しをする機会を持っている。また、担当職員だけでなく、個別対応職員が子どもからの意見を聞く場を定期的に行い、自立支援会議において子どもからの意見等を提案できる仕組みができている。	

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。	
① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>
【コメント】	

自立支援コーディネーターが自立支援計画策定の責任者となり、担当職員と共に自立支援計画策定に取り組んでいる。定期的に子ども理解をするための関係職員が集まり、アセスメントを行う場を設定している。支援困難ケースには、担当職員の要請を受けて、個別支援対応職員も子どもの考え方等を定期的にしっかり聞く体制をつくり、養育・支援に活かしている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画は計画を立ててから半年後に、担当職員と自立支援コーディネーターと一緒に、取組を見直すとともに、改めて自立支援計画を立てている。その作業を丁寧にすることが、子どもへの支援の質の向上につながっている。また、見直された自立支援計画は、職員全体に周知するようにしている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

「個人カルテ」「児童台帳」等、園で統一された記録システムに、各子どもへの支援記録が詳しく残されている。また、その記録ファイルは全職員が閲覧でき、共有されている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

記録管理の管理者が決められ、個人情報保護規程についての研修を、職員会議において実施している。情報の取り扱いについては、入園時に子どもと保護者にわかるように説明し伝えている。毎月発行の「園だより」や、昨年度から始めた「園ブログ」においても、個人情報のチェックを複数の職員がするなど、管理体制が確立されている。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>権利擁護に関する人権マニュアルが明文化されている。人権擁護推進員を中心に、子どもの権利擁護の取組ができている。職員は、研修を通じて権利擁護について学びあう機会を持ち、権利擁護についての意識を高く持ち、子どもたちに接することを共通理解しあっている。毎月一度「子ども会」での話し合いをしたり、子どもに年に一度「人権アンケート」を実施し、子どもの意見を活かしながら、子どもの意見を大事にした取組ができている。</p>	
(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>日々の生活場面において気になる場面があるときは、適時指導することを大事にしている。また、時には「権利ノート」を活用し、子どもとともに自他の権利について理解する機会をもっている。職員間では、権利侵害が起こった具体的事例を教材とし、子どもの権利について学びあう機会を持っている。</p>	
(3) 生き立ちを振り返る取組	
<p>① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。

a

【コメント】

自立支援コーディネーターが中心となり、成長過程がわかる写真と一言メモが綴じられた「成長の記録(アルバム)」が作られ整理されている。そのアルバムを活用し退園前には必ず子どもの成長を振り返る機会を持っている。また、退園前だけでなく、必要に応じて、自分の成長を確認する場を設けている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。

a

体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。

不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。

子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。

被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。

被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。

【コメント】

職員全体が、子どもに「さん・くん」をつけて呼び、人権を大事にした関わりが共有できている。職員研修には、「起こりうる人権侵害例」を教材にした学習会を実施している。子どもが発達に応じた人権学習ができるよう人権プログラムが作成されている。子どもが自ら訴える機会として「意見箱」も設置している。また、事案が起こったとき、職員には通告義務があることも周知徹底するとともに、事案が起こった時の取組プログラムも明文化され、全職員が共有できるようにされている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

① A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。

a

子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。

入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。

子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。

家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。

【コメント】

入所前に子どもとの面会を重ね、「生活ノート」を活用し学園生活の様子を説明し、子どもの不安軽減に努めている。家庭復帰や施設変更にあたっては、子ども・保護者と十分に協議し、新生活に希望を持てるよう支援している。

② A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。

a

子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。

退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。

退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。

<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立に向けて子どものニーズを把握し、関係機関と連携を取りながら必要な体験や学習ができるように努めている。退所後も、時折園を訪れる場合もあるが、園における「子ども祭り」等、多くの退所者が園に遊びに来られる場を設けている。退所者の個人記録を整備し、来園した退所者には必ず自立支援コーディネーターが声をかけ様子を聞き、随時動向等を記録している。また、アフターケアについては、施設だけで抱え込まず、関係機関と連携を取りながら必要な社会資源を活用する等の取組も出来ている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	<p>A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
【コメント】		
<p>子どもが表出する言動についての理解に努めるとともに、困難事例について、日ごろから報告・連絡・相談しあえる体制が整えられている。また、担当者だけで抱え込むのではなく、随時、心理士・自立支援コーディネーター等関係者が集まり、子どもの理解についての共有・協議する場を設け心理的課題の把握に努めている。</p>		
②	<p>A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
【コメント】		
<p>「子ども会」等、生活ルールを話し合う場を設け、子ども達から出た意見を柔軟に取り入れるように努めている。基本的な信頼関係を築くために担当職員を配置するとともに、さらに必要に応じ個別対応職員が定期的に子どもの話を聞く時間を取り対応している。</p>		
③	<p>A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>

<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

定期的に関われる子ども会で出た子どもの思いが、生活ルールに反映されている。さらに、生活棟単位で会議を開き、主体的に子どもたち自身が問題解決しながら自分たちの生活を築いていけるように支援している。

④ A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

子ども達の遊びや学びを保障するために、フットサル・拳法等の習い事や、塾・家庭教師・ボランティアによる学習の場を設ける等、子どもたちの願いに応えている。また、子どもたちの欲しい物(フラフープ・トランポリン・工作キット等)を、SNS上で一般の方から寄付をしてもらうシステム「欲しいものリスト」を活用し、子どもたちの生活が豊かになるように配慮している。

⑤ A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

小規模グループで生活するようになり、お米の洗い方、ご飯の作り方等日常生活の中で様々なことを学ぶ機会が増えている。夏休み前の「情報モラル」など、月に一度程度外部講師を活用し、子ども達に身に着けたい社会常識等を学ぶ機会を設けている。高校生には、社会性を学ぶために積極的にアルバイトをすることを推奨している。

(2) 食生活

① A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気の中で食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○

<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとの、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

各生活棟で調理する機会を設けている。また、近くのコミュニティセンターの調理室を利用しおやつを作る機会もある。定期的に嗜好調査をしたり、食事アンケートを実施したり子どもの意見を献立に反映する取組をしている。

(3) 衣生活

① A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

施設の近くに購入できるお店ができ、自分で好みの衣類を購入できる機会も増えた。子どもの個性を尊重しながら、自分の服装を選べるように配慮している。更生保護女性会の方が、洗濯ボランティアとして入ってくれるなど地域の方の協力もあり、常に清潔な衣服を身に着けられるように配慮できている。

(4) 住生活

① A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

小規模グループで生活するようになり、高校生は一人部屋で生活している。小学生以上の子どもも2人部屋で生活し、個人のスペースを確保している。これらのことにより、自分のスペースをより大切にし、部屋の整理整頓に心がけ、自分らしい個性ある部屋、清潔な環境を意識した部屋となっている。共有スペースも家庭的な雰囲気を大事にしながら、日ごろから子どもたちとともに、整理整頓が身につくように指導・支援している。

(5) 健康と安全

① A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○

<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

園内で、毎月15日に身長・体重測定を実施し、子ども達の健康チェックをしている。また、学校での健康診断は、学校との連携で情報共有し診断結果を伝えてもらっている。インフルエンザ予防接種等で、年2回医師に来院して頂き子どもたちの健康管理に努めている。日頃から看護師が健康教育を実施し、子ども自身が自分の健康を把握管理できるよう支援している。職員も健康に関して学習する機会を持ちながら、一人ひとりの健康に留意している。

(6) 性に関する教育

① A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

職員は、性教育担当職員・心理士・看護師と連携している。また、他機関から講師を招き、子どもの発達に応じ幼児期から「加害者にも被害者にもならない」を軸とし、性教育カリキュラムを着実に実施している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

問題行動が起きた時の対応マニュアルを作っている。問題発生時には、生活棟で子どもたちが話し合い、子どもたち自身で考え解決できる機会を持つようにしている。また、問題行動が起こらない環境改善に向けた職員全体での取組をしている。随時、児童相談所等の関係機関からの協力も得ている。

② A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。

【コメント】

小規模化に伴い、グループ編成について配慮している。問題行動について担当職員一人で抱え込むことがないように、複数職員でフォローしあうことができる職員体制を整えている。また、問題行動については、時間・場所等も含め、記録に残し振り返ることができるとともに、同様の問題行動が起こらないような人的・物的環境を整える配慮をしている。児童相談所、学校、病院、警察、少年センター等関係機関とのネットワークも強化している。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立支援計画に「心理的ケア」の項目があり、一人ひとりの心理的援助プログラムが示されており、関係職員が共有しながら、心理的支援ができています。心理士が定期的にカンファレンスを行っている。また、月に一度程度外部の大学教授のスーパービジョンを受け、子どもたちの心理ケアに努めている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

学習習慣が身につくように、子どもの希望を聞き、家庭教師・塾・ボランティアによる学習会・職員による学習支援等、個別に応じた支援を実施している。学校との連携もできており、個人懇談や連携会議を通じて子ども達の様子についての情報共有をしながら、学習支援を行っている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立支援コーディネーターが高校生を対象に、定期的に面談をし、個々に応じた資料や選択肢を提示し、子どもが主体的に自己選択ができるように支援している。職員が各種助成制度についてのアンテナを高くして、それら情報を個々の子どもに合わせ情報提供するようにしている。また、関係職員が子どもの進路情報を共有できるように、自立支援会議を定期的に開催し、子どもが自立に対して前向きに希望を持って自己選択できるように努めている。

③ A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

社会経験のためにアルバイトの機会を勧め、高校生の大半は、アルバイト体験をしている。自動車免許・タイピング・簿記等の各種資格取得をしている子どももいる。和歌山県中小企業家同友会の協力を得て「様々な仕事を知る」「園外の大人と交流する」を目的に、毎月訪問をしてもらっている。さらに、職場見学・職場体験ができるような取組を行っている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援相談員が、子ども・保護者・児童相談所との相談窓口としての機能を果たしている。毎月発行している「園だより」で施設の行事予定等を知らせるとともに、園だよりの中に、個々の保護者へ担当職員から園での子どもの成長や日常の様子を伝える欄を設け、積極的に関係作りに取り組んでいる。園の祭りに保護者の参加もある。

(11) 親子関係の再構築支援

① A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>

児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。



【コメント】

家庭支援専門相談員が、自立支援計画において、今後のケース見立て・再構築のための支援方針を明確にし、支援している。児童相談所の職員とともに家庭訪問をする機会もあるなど、関係機関と綿密な連携を図り、家族支援に努めている。